

第1回知の市場年次大会に寄せて

2010年3月4日

早稲田大学総長

白井克彦

知の市場の活動は、2004年度に化学生物総合管理の再教育講座として開始して以来、早くも6年を経過し7年目を迎えようとしております。知の市場のようなボランティアを基本とする教育活動が、ここまで継続し発展してきたことはそれ自体が驚きであります。とりわけ、政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた後の2009年度に、開講拠点が全国23ヶ所に拡大し応募者が単年度で4,374名と過去5年間平均の3.5倍に急増したことは、驚嘆するばかりであります。そして、2010年度には開講拠点が北九州、福山、倉吉、大阪、名古屋、仙台などを含めて全国32ヶ所に増大することに端的に現れているように、知の市場がさらに大幅に拡大し充実することに、大きな感銘と時代の進展を感じるものであります。

こうした知の市場の展開はひとえに、知の市場が掲げる「現場基点」、「互学互教」、「社会学連携」といった理念、そして、それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた運営の方針が、大きな時代の潮流を先導するものであったことに拠るところが大であることは間違いありません。さらに、受講者に2時間授業15回2単位相当で構成する科目をひとつの括りとして纏めて履修することを求めるとともに厳しい成績評価を行うなど、大学や大学院の教育と比べても遜色がない教育機会を提供していることも、時代に新たな風を巻き起こし成功の誘因になっているものと思料されます。

こうした知の市場の考え方や活動は、第二の建学の時を迎えた早稲田大学の考え方や活動にも沿うものであります。世界のグローバル化が進む中で、これまでの状況を踏襲するだけでは、江戸時代の鎖国状態以上の閉鎖状況に日本は陥ってしまうことが懸念されます。日本は幕末に続く第二の開国に臨むべき時を迎えているといっても過言ではありません。そうした中で最も重要なことは、大隈重信翁が早稲田大学の建学に託したと同様に、時代を先導し社会を創る人材の育成であります。

早稲田大学は近年、伝統であるアジアの人々との強い絆を活かし発展させながら国際教養学部の新設や海外の大学との連携の強化に大胆に取り組み、第二の開国を担いうる人材の育成のための体制を構築してきました。また、追走（Catch Up）の時代から先走（Front Run）の時代に移った日本において最も

必要とされている人材は、狭義の専門家・技術者であることに満足しないマネジメントの資質を持った専門家・技術者であり、規範を遵守（Rule Follow）することに止まらず、それは当然のこととしつつ社会を変革し世界を先導していく規範を創始（Rule Make）する人材であります。文系理系の枠に囚われることなく規範の創始者を育成することは、日本が世界で活路を見出して行くために不可欠の要素であります。早稲田大学はこうした面でも教育の飛躍を図るべく改革を進めてまいりました。正に第二の建学と言われる所以であります。

こうした第二の建学の流れの中で、2009年に規範科学総合研究所が設立され、また、規範科学を旨とする共同大学院が1ヶ月後の2010年4月1日に開校します。そして、社会人教育において規範科学総合研究所が知の市場と一体となって18科目を開講するほか、学校教育においても共同大学院が知の市場と協力して6科目を開講することとしております。さらに、将来、専門家・技術者として社会に巣立っていく理工学部の学生が規範の策定者として或いはマネージャーとしても機能を果たせるよう、より広い視野を身につけてもらうために知の市場の支援を得て規範科学を学習する機会を設けています。

知の市場が掲げる「現場基点」、「互学互教」、「社会学連携」といった理念、そしてそれぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた運営の方針などは、早稲田大学の建学の精神にも適うものであります。また、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しようとする試みや、プロ人材の養成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合して行こうとする取り組みなど、知の市場の挑戦は時代を開拓する活動として大変良く理解できるものであります。これらのいずれもが第二の開国を裏打ちする教育の新たな体制の整備に繋がっていくことを期待しております。

知の市場の進化は、知の市場の活動に参画する開講機関や連携機関そして講師の皆様や受講者の皆様はじめ多くの方々の尽力に負うところ大であります。これまでのご努力に敬意を表したいと思います。とりわけ、必ずしも教育を本来任務としない、或いは、従来教育に縁のなかった組織や個人が自発的に教育に参画し自主的に活動する姿には頭が下がる思いであります。

社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員野球の中で各々の役割を果たして教育を支えていく状況こそ、さらに、教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく状況こそ、日本が目指す真の教育立国であります。津々浦々で諸々のことを担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会、そうした社会の構築に向かって道を切り開いていくことが知の市場に託されています。知の市場の今後の一層の発展を楽しみに期待いたしております。